

### ◎ Ⅲ 浅海資源分布調査(笠利龍郷)

- ◎ 調査場所 北大島(笠利龍郷村)一円
- ◎ 調査日時 昭和31年6月23日～6月27日
- ◎ 調査概要

#### (1) 地 勢 (Fig1)

奄美大島本島では、名瀬を中心に本島を二分し、北大島、南大島地区と呼称している。

笠利龍郷地区は本島でも随一の平地にめぐまれているため園芸稲作等最近とみに高まり農家経営の歩み方に一步進んだ農法に變りつゝある。

かような次第で、地区民の食生活、経済力も 他村に比べかなり豊かなようである。

住民の80%は農業が主であり。残り20%が、農漁業の兼業者と見做しても過言ではあるまい。

調査の結果から見て、周囲には相当量の資源を持ちながら僅かな人の手によつて活用されている現況である。

漁業に於いても そういうことが云える。

#### (2) 資源分布状況 (Fig2～4参照)

##### (イ) ま くり

笠利湾内を除く 他の沿岸に殆ど生育し、特に笠利村万屋、和野附近が生産量多し

##### (ロ) きりんさい

イギスと稱し、採集利用され 特に味噌漬として食用に供している。分布は まくり と殆ど同一

##### (ハ) てんぐさ

笠利～和野附近に多産、円沖にも多少採集された。

##### (ニ) も ず く

笠利湾内、赤木名、喜瀬沿岸に饒産している。自家消費のみ。

##### (ホ) 貝 類

夜光貝、サラサバテイ、ギンタカハマ、等貝卸材料として採集販売している。(各沿岸とも)

##### (ヘ) そ の 他

いせえび、うに類も多い(各沿岸)

とびうおが、円沖合に来遊し、当日も2,000斤の漁獲があつた。

時期は5月下旬～9. 10月頃。

シイラが、秋期湾内に来遊する。



Fig.2. 資源分布(1)

まくり  
もすく

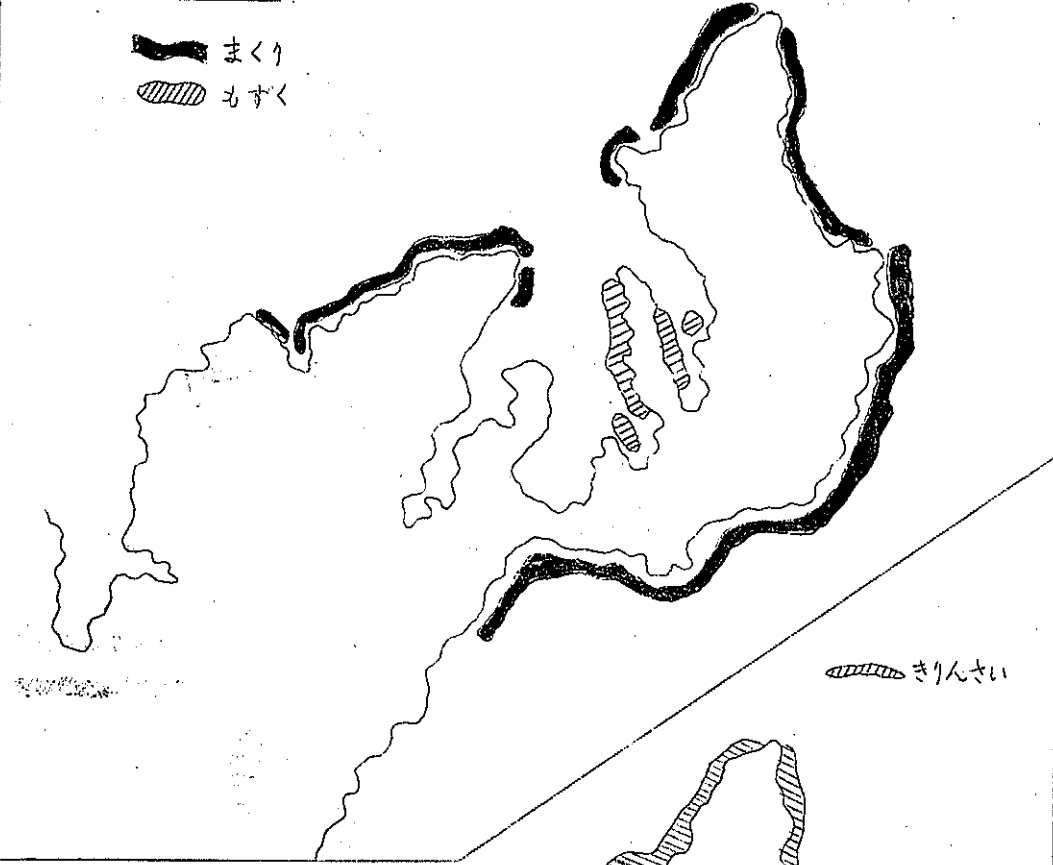


Fig.4. 資源分布(3)

